

HAND in HAND

はんど いん はんど

VIVA! 片親家庭!

❏ 前回のニコニコ離婚講座を終えて、ほとしたる日後、激しい雨があがったばかりで、誰もいない井之頭公園の桜が雨にぬれてキラキラ光り、なぶる様に美しかったことを覚えています。あれから丸三斗、また桜の季節がめぐってきました。ニコニコなんてふざけているといわれた講座も定着し、思惑通り、離婚からうける暗いイメージをずいぶん吹き飛ばせたと思自負しています。でも Hand in Hand 会合でも時々、リンとしたというだけで好奇心目でみられるという言葉を聞きます。そして片親家庭というのはまだまだ特別な目で見られてしまうようです。学校の教師でも平気で「あの子は母子家庭の子だから」と言う人もいるのです。そんなに片親家庭、って「ハント」があるものでしょうか。悪や非行の温床でしょうか。とんでもない。両親のそろった家庭とち、とも変りません。両親がそろっていても不幸な子もいれば、片親でもとてもしあわせに伸び伸びくらしている子もいる。今、翻訳している「子供が書いた離婚の本 (The Kids' Book of Divorce)」でも、子供たちが書いています。「両親のそろった家庭がしあわせで、ふつうだと僕たちは思っている。ふつうじゃなくなることが不安だけれど、それはテレビやコマーシャルや周りの人が、両親のそろった家庭ばかりを良いといいすぎるからだだけだと思ふ」と。

❏ 私たちは今、「離婚と子ども本」をつくりたいと走りまわっている。ここでは、離婚した家庭だとしても子供たちはしあわせに楽しくくらしていることを書きたいし、離婚について子供たちがどう思っている、どんな影響を受けたかなど、さまざまなことを追求したいと思っています。何か思いついたことでもあったら、ぜひおたより寄せてください。

1982. 4. 3 円より子

逐次刊行物

13.2.14

国立女性教育会館

14

人間らしく生きてく

離婚した私

—今もしいたげられる農家の嫁

(手紙から。)

私は、5年前に農家の長男に嫁ぎ、三年間の結婚生活を経て、2年前、調停離婚をしました。現在、看護婦をしながら、保育園に通う4才の長男と生活しています。がまんのできなかった嫁が悪いと、農村ではいわれませんが、人間らしく生きてく人間として扱ってほしくて……自分の子供も同じ運命をたどらせたくなくて別れました。

現在でも農家の嫁は、牛や馬と同じで「ただ、だまって働け」の一言で、人権などありません。意見ひとつ言うこともできません。姑もそれまでさんざん農家の嫁として精神的・肉体的にしほりつけられてきたからでしょう。私が来たので、一気に嫁に対する皮肉、いやがらせが爆発したのです。自分のしてきた苦勞は嫁にのせてやる。自分は今まで、30年間、農家の嫁として苦勞してきた。だから嫁も同じ苦勞をしうしてあたりまえ、というわけです。それを覚悟で嫁にきたのだらう、貧乏人の家からこっちがまら、てや、たのだ……ときよいいました。

結婚前は、やましい人と思えた主人も、

そのやましきは、気の弱さにすぎませんでした。ぐちをいえる人もなく、夜、つい主人にこぼす私に、主人は、姑と嫁の問題には、かわりあいたくないといひ、月日を経って主人とイライラしてくると、私に暴力をふるって口を閉ざせようとする。そのうえ、自分の親の前でみせしめのように暴力をふるう。それを「ぶまみさし」とよんでみている姑。姑と主人は、やはり親子、嫁だけが他人で……

両親と別居して、と頼んでも、主人の意志は何もなく、親せき一族、どこも親のいいなり。だから、すべて嫁のわがまま。どいいうことになってしまいました。暴力をふるわれようと、殺されようと、姑に何をせよと、一度嫁にきたからには、そこで死んでもうう……と。それが嫁といふものだ、といふことでした。

現在は、誰にも支配されず、自分の意志で行動できることが、どこもありがたいと思っています。子供は男の子なので、特に父親を必要とする時期が来ることでしょう。そんな不安が多々あります。自分なりに懸命に働くこと、その後輩をみせることしかできません。それが離婚した女の母としての生き方かな、と思っています。(千葉から。)

★同じ様な立場の人、おたより下さいませんか。また、この方のお手紙について感想があれば、どんなものでもけっこうです。お寄せ下さい。

離婚と性

前号でご紹介した手紙に対し、反響がありましたので、ご紹介します。

★58才の男性より。

「13号の、ほんどんはんび」拝読し、このテーマを聞いた勇氣ある行為に拍手を送りたいと思います。私の時代には、口に出すものはばがられたものです。私は、32才で別居して以来、別居から生きたいやなこと、一番苦しんだことはセックスのことでした。地獄以上に地獄的な苦しみだと思いました。スホーツをいくらしても酒に熱中してもだめでした。想像するに今夜の夕食を食べる金がないような時には、セックスでイライラすることはないと思うのです。ひとり娘をかえていたものの、衣、食、住に困らない父子家庭——私は、毎日クタクタになるまで仕事をしても、夜になれば、別れた妻以外の女性の妄想になやみしました。困ることは、ただ、セックスでした。そこで、父子家庭の父親達で独特な方法をうみだし、解決してゆきました。「解決できないことは、植物人間として生きることだ」と思った時に、解決の道がみつかりました。セックスについて、悩み、イライラについて悩み——この悩みに沈みこまざる

泳ぎぬくか?は、本人の考えひとつによるのではないでしようか。「泳ぎぬくぞ」と決心したら、その道はみちりけいくと信じています。頭の中でだけ、悩み、苦しむことは、とてもいやなことだと思います。」

☆女性、年齢不詳

「ほんどいんはんだるすの時届いて、子供が読むことあるので、今回の様に、セックスの手紙等が、のっていると困るので、次からは、送っていただかなくて、け、こつてす。」

☆33才の女性(二児の母)

「離婚してから、男性と付き合うというだけで中傷され、お互いに傷つくことが、すい分いさるなことを言われました。」

はんどいんはんだの会合から

オ9回(38)のはんどいんはんだの会合から、目標を決めた話し合いを持つことになりました。テーマは、「主婦って何だろう?」でした。なぜこのテーマを選んだかと言うと——改めて主婦とは何かを考へる事は、女の子を育てる時も、男の子を育てる上にと役立つことではないだろうかと、再婚をして新しい結婚生活をする上でも必ず役に立つことがあるだろうと考へたからです。オ9回の会合の申し込みを電話で受ける時、「今回のテーマは、主婦って何だろう?で、すい分いさるなことを言われました。」と伝えると、「アラ、私は主婦じゃないから、わがらないわ。」とが、私は、主婦失格なものですから……どうしようかしら。」という答えが、かえってまじりました。会合には、13名が参加し、一時間半は、アツという間に過ぎてしまったので、オ10回にも引き続いて同じテーマの話し合いをもつことになりました。たくさん意見が、かゆさやまじりました。

●参加の電話をした時に、テーマを考へてくる様に言われたけれど、考へが浮かばなくて、職場の人(女性)5人に、たずねてみたら、「主婦?考へたことないわ。」という答え。独身の男性は、「現在主婦やっている人は、何だろう。なんて考へないんじゃない?」離婚したから考へられるんじゃないの。ユニークだね。」と言われた。

●職業欄に、主婦って書く人いるけれど、私は、主婦は職業とは思わない。お金がとらえるわけではないから。

●母に対しては、夫に対しては妻ということばがあるのに、主婦に対しては妻という名称はない。主婦ということばは、できてから、まだ100年くらいしか経っていない。家族のかため、家を司る人——そんな意味のことばを作った。女をたてまつり、結局、女を黙らせてきた。●主婦といわれている女性は、経済的自立が困難だから、結婚しても家庭の中でただじっと働いて、夫が浮気をしても経済的な崩壊まで至らなければ、子供とあるし……と、がまんしてついでにくしかない。●主婦をテーマにした時、話しくさがある。国は、家庭というマスの崩壊が困るから、

社会のマスとしての主婦像を作った。本来ならば、個人レベルで考へるべき。主婦像をマスひとつとして規定されてきたもの。それについて話すなくてはならないから、とても論じにくい。

●仕事なり、かたちになつてはねかえて、目に見えてくるのに、主婦の価値は、子供や夫を通してしか得られない。

●主婦って男性が作ったことばじゃない? 私は、主婦ってことは嫌い、アレルギー。男性と女性とは、「主婦」の定義が違ふと思う。昔の女性は感情をおさえてきたけれど、現在は違ふ、いろいろ考へるようになってきた。新しい呼び方があっていいと思う。——以上、ほんの一部、紹介しました。オ11回のはんどいんはんだの会合では、子供にとっての父親とは? 父親は必要かということについて、「父親とは?」をテーマに話し合うつもりです。他に、私はこんなテーマの話し合いがしたい、という方どしどし意見をお寄せ下さい。

結婚の意思のある方、求む

まず、文通を通して知り合いになりましょう。大阪の男性からのお便りです。昭和10年生まれ、高校一年生と中学三年生の息子さんと、三人ぐらしのサラリーマン。はじめて身上書を送ってきた方です。結婚の意思のある方、電話か手紙で、お知らせ下さい。

第33回 ニコニコ離婚講座のお知らせ

〔期 日〕4月26日(月)午後1時半～4時

〔会 場〕青山ラ・ミアビル5F(地下鉄銀座線表参道駅下車、A5出口前)

〔受講料〕500円 〔定員〕100名

〔講座内容〕1部『主婦症候群』円より子

2部『離婚に必要な法律と手続き、質疑応答』

金住典子 弁護士

“はんどいんはんど”へのおさそい

★第11回ははんどいんはन्दの会

〔日時〕4月15日(木)午後6時半～8時

〔場所〕新大寺町ビル1階

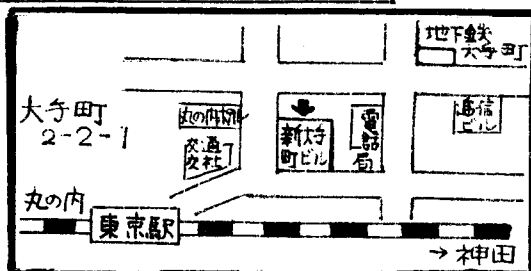
『サンパティック・サロン』

〔会費〕1000円 〔定員〕12名

〔内容〕「父親とは？」がテーマ

〔申し込み方法〕3日前までに、

TEL. 402-7354。受け付け、AM11:00～PM5:00



子供といっしょに青空の下で遊びましょう! ヒクニックのおしらせ

★5月2日(月)午前11時集合。雨天の場合は、翌日に順延。

子供をつれて集まる。担当は、はんどいんはन्दの会の世話役、永浜さん。

くわしいことは、永浜さん宅に電話を。電話番号は、——ます、オスス

ヨリックまで。402-7354(受け付けAM11:00～PM5:00)

「ヒクニックのことで。」と言って下さい。——永浜さん宅の電話番号おしえます。

編集後記 3月のある日、東京から電車に乗り、また、バスに乗って神奈川方面にでかけました。お話は夜になっても尽きず、とうとうお家に泊めていただくまでになってしまいました。朝、娘の髪を結びながら、「今の生活は最高だわ。自分の気持ちに忠実でいられるのは、こんなにすばらしいものかしら。」と言うお母さん。この様子に、『離婚と子どもとの本』は、協力者のおかげで、良い話が、どくどくと、集まりつつあります。中には、「もう離婚が決まってや」と気持ちがスッキリして、今は、話をしたくない。」という方もいます。時間をかけて、今までにないものを作っていこうと考えて

います。ぜひご協力をお願いします。アンケートの裏面から、「私の記憶の中からは消えなかったものの離婚が、毎月「はんどいんはんど」をみるたびに複雑に思い出されます。」35才の男性です。

購読方法

この、「はんどいんはんど」は、毎月10日前後におてもとに届くようにしています。定期購読は、半年分1000円・1年分2000円で受け付けています。転居や、姓の変わった時には、お知らせ下さい。

お便り等は、下記住所まで、お待ちしております。

▼1982年4月1日

ニコニコ離婚講座発行

▼発行人・円より子 ★編集人・平澤ミド

〒150

東京都渋谷区神宮前3-33-2

原宿ハム202 オフィス・ヨリック